

今週のメニュー

■ [トピックス](#)

- ◇ “エコプロダクツ2014” に8年連続出展！
ー塩ビ（PVC）ブースをご紹介しますー

■ [随想](#)

- ◇ 古代ヤマトの遠景〔番外〕（1）

木下 清隆

■ [編集後記](#)

■ トピックス

- ◇ “エコプロダクツ2014” に8年連続出展！
ー塩ビ（PVC）ブースをご紹介しますー

日本最大級の環境展示会エコプロダクツ2014（（社）産業環境管理協会、日本経済新聞社主催）が12月11日（木）から13日（土）までの3日間、東京ビッグサイト東1～6ホールで開催されます。今年の出展者数は750社・団体、入場者数は17万5千人が見込まれています。

1999年にスタートした同展示会は16回目の開催となりますが、今年のテーマは、「見つけよう！未来をかえるエコの知恵」です。『今年3月、日本で初めて開催された国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の総会で、このままのペースで温室効果ガスの排出が続くと、極端な自然災害や生物種の減少、食糧不足や健康被害などのリスクが非常に高まると指摘され、地球温暖化に適応した持続可能な社会をつくることも必要とされています。そのためには、「エネルギー」のほか、「防災」や「住まい」、「食」といった幅広いテーマへの対応も不可欠です。こうした課題への取り組みをあらためて環境対策に活かすことで、未来へ続くよりよい社会が実現する』としています。

塩ビ工業・環境協会（VEC）と塩化ビニル環境対策協議会（JPEC）は、過去7回連続して出展し、PVC製品の環境性能やその優位性と、PVC製品の新たな可能性を訴えて参りました。8年連続出展となる今年は、「PVCで省エネ・快適な暮らしと新たな可能性への挑戦」をコンセプトとして、長寿命・リサイクル性能で省エネ・資源節約の塩ビ製品の数々、例えば、パイプ、床材、断熱性能に優れて省エネにも快適な生活にも大きく貢献する樹脂窓、さらに、採血した貴重な血液の保存性能に優れ信頼性の高い血液バッグなどを展示し、PVCが地球環境と人に優しいプラスチックであることを訴求します。

今年度の企画ブース（CG画像）はギャラリー形式とし、シックでモダンなイメージのブースとしています。また、奥のエリアには“PVC Design Award 2014”の入賞作品を展示します。

私どものPVCブース（東2ホール、No.2-009）へのご来場をお待ちしております。詳しくは、[エコプロダクツ2014](#)の案内をご覧ください。



VEC ブース企画案

■ 随想

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕(1)

木下 清隆

《 櫛田神社考 》

はじめに

博多に櫛田神社がある。有名な博多山笠はこの神社の祭りである。毎年、七月一日から十五日まで行われる博多の山笠は、日本各地で繰り広げられている祇園祭りの一つであるが、これは櫛田神社の祭神である素戔鳴尊すさのをのみことに山笠祭りを奉納し、博多の町の無事息災を願う夏祭りである。スピードを競う勇壮な追い山笠、壮大にして華麗な飾り山笠、二つの山笠の動と静、この絶妙なコンビネーションで成り立っている博多山笠は、数百年に亘って博多の人々が慈しみ育ててきた祭りである。今やこの祭りは福岡市の誇りであると同時に、全国的にも多くのファンを持つ夏祭りの一つとなっている。

それでは、櫛田神社は素戔鳴尊だけを祀る神社かということ、実はそうではない。別の神が主祭神として祀られており、素戔鳴尊は主祭神ではない。ではその主祭神とは誰なのか。この神についていろいろ調べてみると、極めて珍しい神であることが分る。さらに調べてみると別の主祭神が姿を現してくる。博多の総鎮守である櫛田神社の本来の祭神は誰だったのか、櫛田神社はいつ創建のされたのか、これらは未だに謎である。その謎解きに挑戦したのが本考である。



櫛田神社



櫛田神社に奉納された飾り山笠

神社には必ず祭神さいじんが祀られている。又、神社が創建される経緯についてはそれぞれに個別の理由がある。古代の神社の起源は自然の猛威をもたらすもの、或は人々に豊饒をもたらすものなどを神として祀るようになったのがその始まりと考えられている。神として例えば、太陽神、雷神、水神或は食物神のような自然神である。更にこれらの神からその地

方特有の神話が生まれ、この中で又神々が誕生する。或いは、王や大王のような英雄が亡くなり、その御魂が祖霊となりその後、神と呼ばれるようになる場合もある。このような状況の中で、『古事記』と『日本書紀』が編纂され、更に大量の神々が誕生した。この記紀の中で誕生した多くの神々が新しく祀られるようになると、それと共に幾つかの神は姿を消し、神々の世界は大いに混乱することになる。このような事態が生じたことから、現在において神々の由緒・由来を明らかにすることはきわめて難しい問題となっている。

人々は何らかの理由で神を祭祀し神社を創建する。この場合、神選びをどうするかが問題となるが、圧倒的に多いのは他の神社の祭神を^{かんじょう}勧請する場合である。勧請とは、本社^{かんじょう}の祭神の分霊を迎え新たに祀ることである。或る特定の祭神が有難い神様として、あちこちで勧請されれば全国に同じ祭神の神社がたくさん存在することになる。『神道事典』（弘文堂、一九九九、三百十三p）によれば、このような神社での一番人気は、伏見稲荷である。祭神は^{うかのみたまのみこと}宇迦之御魂命と云い、食物の神様である。二番人気は宇佐八幡(応神天皇)、三番人気は伊勢神宮(天照大神)と続く。



伏見稲荷

なお、この勧請という言葉は仏教語に由来しており、仏の一切衆生の救いを請願する意味が語源とされているところから、かなり新しい語といえる。従って、本社からの分霊という方式が確立する以前は、恐らく恣意的に祭神が勧請され祭祀されていたと考えられる。^{ひもろぎ}神籬を設けて招けば何処にでも神を勧請できるとの認識があったからである。従って、分霊の仕組みができた



宇佐神宮

以後であっても、勝手に勧請された可能性は高い。そこで、本考では以後、引用文献で使用される場合を除き、「勧請」という語を用いるときは、本社からの分霊による場合と、恣意的な祭神の勧請による場合の、二つの意味が含まれているものとしてこの語を使用することにする。

このような前置きで榎田神社の祭神を調べてみると、御神殿の中殿に^{おおはたぬしのみこと}大幡主命、左殿に^{あまてらすおほみかみ}天照大神、右殿に^{すさのをのみこと}素戔嗚尊が祀られている。このうち主祭神は中殿の大幡主命である。両脇の天照大神と素戔嗚尊は古事記、日本書紀では姉弟神として登場するが、相撲でいえば東西の横綱格ともいえる神々である。これに対し大幡主命なる神は、記・紀の中にも登場しない全国的に見ても殆んど無名の神である。この大幡主命なる神は一体どのような神なのか、何故、榎田神社の主祭神となったのか、榎田神社はいつ創建されたのか、その他の神々の由来は、といった疑問が幾つも湧き上がって来る。これらのことについて、神社側にも一部を除き確かな記録は残されていない。更に、この大幡主命については何かの間違いで祭神とされたのではないかと云った疑問まで出されている。

(つづく)

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いに存じます。>> [\(筆者\)](#)

「古代ヤマトの遠景」：[バックナンバー](#)

■ 編集後記

ヤツデの花が咲いていますね。レースのような雰囲気なので、暖かい時期に咲くようなイメージを持っていたのですが…

「窓の外に白き八つ手の花咲きてこころ寂しき冬は来にけり」（島木赤彦）
いよいよ、12月になりますね。（漠）

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601

■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp>

■E-MAIL info@vec.gr.jp